

第4学年国語科学習指導案

日 時 平成18年10月3日(火) 6校時

児 童 男子8名 女子4名 計12名

指導者 植本真理

1 単元名(教材名)

材料の選び方を考えよう(アップとルーズで伝える/四年三組から発信します)

2 単元について

(1) 児童について

児童は、説明的な文章の「読むこと」において、第3学年で段落の概念を学び、第4学年の「『かむ』ことの力」で段落相互の関係をおさえる学習をしてきた。また、段落の構成については、文章の「初め」に「問い」があり、題名や繰り返し出てくる言葉、接続語に気をつけながら「答え」に当たる内容を見つけて読む学習を繰り返してきている。

本学級の児童は、意欲的に文章を読んだり、工夫して音読しようとする児童が多い。「読むこと」に関しては、「問い」に対する「答え」を見つけるために、重要語句に気をつけて段落を読むことは理解している。また、発問に対して文章の中の言葉を根拠にして答えることができる。しかし、長い文章や段落になると、中心となる語や文を的確にとらえたり、文と文を関連付けて読み取ったりすることは十分身に付いているとは言えない。また、文章全体の段落のつながりを考えることについても個人差が大きい。

(2) 主たる指導事項

「読むこと」における本単元の指導事項は、「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと」「目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと」である。本単元では、まず段落ごとの中心をおさえてから、前後の段落との関係を考え、段落のまとまりから文章全体の構成をとらえていくことになる。

そのために、段落を要約したものと指示語や接続語から段落相互の関係をつかみ、段落のまとまりが文章全体の中でどのようにつながっているかを考えて文章構成をとらえていくことが大切になる。

(3) 指導に当たって

本単元では、はじめに、「アップとルーズで伝える」の中の対比的な段落関係をつかみ、それを含んだ文章全体の構成をとらえ、伝えたい内容と目的に応じて画面や写真が選ばれていることを学習する。その後、その内容をふまえて、情報を収集し発信する学習へと構成されている。

教材文「アップとルーズで伝える」は、私達がもっとも目にしているメディアであるテレビの映像技法を中心に述べたものである。児童にも身近に感じられる内容であり、実際に確かめることも容易である。また、アップとルーズについて対比的に述べられており、段落の中心となる語や文をとらえることや段落構成を把握することが比較的スムーズにでき、読む力を身につけさせる教材に適している。

文章構成としては、二つの段落が対比的に述べられた後、それをまとめる段落があり、これが一つの大きなまとまりをつくっている。さらに、この大きなまとまりの二つを受けて、最後のまとま

りがまとめとしての働きをしている。したがって、「問い」の答えを探す読みだけでなく、文章全体の中の段落の役割と最後のまとめで筆者が伝えたいことを読み取らせる必要がある。また、「アップ」と「ルーズ」という言葉は耳慣れない言葉であるためその働きについて、写真と文章を対応させながらその働きを読み取らせていくようにし、さらにその写真に説明をつけることで、段落の要点をとらえられるようにしたい。アップとルーズの長所・短所については、接続語に着目してまとめていく。これまでは、段落どうしのつながりは段落はじめの接続語や内容を手がかりに考えてきたが、ここでは、写真と段落の要点、対比的に書かれた内容から大きなまとめをとらえられるようにしたい。

そこで、指導に当たっては、次のことに留意したい。

- ア 間違わず、すらすら読めるようにペアで音読練習をさせる。
- イ 内容を考えながら読めるように、目的をもって音読する回数を増やす。
- ウ 段落の内容をおさえるために、写真と文章を照らし合わせ、内容を的確におさえさせる。
- エ 段落の小見出し、まとめりごとの大見出しをつけて全体構成を把握させる。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・伝える目的や相手に応じて、情報の材料や選び方、表現方法が違うことに興味をもち、自分が表現していくときに役立てようとする。

(2) 読むこと

- ・それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読むことができる。
- ・写真と対応した部分に注意して読み取り、アップとルーズそれぞれの特徴をとらえることができる。

4 単元の評価規準 (B)

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・伝える目的や相手に応じて材料を選び、自分の表現に生かそうとしている。

(2) 読むこと

- ・アップとルーズの特徴を読み取り、段落相互の関係や、文章全体の中での段落の働きをとらえている。

5 学習指導計画 (18時間)

段階	学習課題	学習活動 (時間)	評価規準 (B)
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の内容を大きくつかもう。 ・ 学習計画を立てよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を見て、テレビの映し方について知っていることを発表する。 ・ 教材文を通読し、内容を大きくつかむ。 ・ 新出漢字を学習する。 (1時間) ・ ペア音読をする。 ・ 単元全体を見通し、学習計画を立てる。 (1時間) 	<p>関 アップとルーズに興味をもち、知っていることや疑問を発表している。(発言)</p> <p>読 引っかけからずらすらすら読もうとしている。(観察)</p>

と じ え ・ ふ か め る	<ul style="list-style-type: none"> 段落の内容をまとめよう。 文章全体のつながりを考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ～ の段落を読み取り、まとめる。(1時間) ～ の段落を読み取り、アップとルーズの長所・短所をまとめる。(1時間) の段落を読み取り、筆者の伝えたいことをとらえる。(1時間) 段落に小見出しをつけ、段落のまとまりを考えて大見出しをつける。段落構成をまとめる。(2時間：本時2/2) 	<p>読 写真と文章の関係や、それぞれの段落の全体の役割に注意しながら読んでいる。(発言・ノート)</p> <p>読 書かれている内容、指示語・接続語などから文章を大きなまとまりに分け、根拠を明らかにして段落相互の関係をまとめている。(発言・ノート)</p>
つ か う	<ul style="list-style-type: none"> 四年一組から発信しよう。 学習を生かして取材しよう。 学習を振り返ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 「四年三組から発信します」を読み、学習の流れを知り、見通しを持つ。(1時間) 教科書の作例の工夫に気づく。(1時間) 題材について話し合い、自分たちのまとめ方のイメージを持つ。(1時間) 取り上げる題材を決め、取材する。 材料を選び、記事を書いたり割り付けしたりする。 下書きをし、互いに読みあう。 清書し、互いに読みあう。(7時間) 互いの作品を見て、工夫点を述べ合う。教材文を読み返し、自分たちの活動を振り返る。(1時間) 	<p>読 これからの学習の見通しをもつことができる。(観察・発言)</p> <p>読 何をどのように伝えるかおおまかなイメージをもっている。(ノート)</p> <p>書 相手や目的に合った选材をし、分かりやすく文章を書いている。(取材ノート)</p> <p>関 学習全体を振り返り、相手や意図に応じた情報の選択について、自分の考えを持っている。(発言・ノート)</p>

6 本時の指導

(1) 本時と仮説とのかかわり

説明的文章の学習指導において、子ども一人一人が自ら読みの視点をもつことができる学習活動を工夫し、その定着を図るための振り返りを取り入れていけば、「読むこと」の力が高まるであろう。

本時は から 段落のつながりを考えて、文章全体の構成をまとめる学習である。前時までは各段落の内容を写真と文章を照らし合わせながら読み取ってきたのに対し、段落と段落がどのようにつながっていて、どのようなまとまりになっているのかを読み取ることになる。これまで児童は、「なか」にあたる段落をまとまりにする学習はしてきたが、本時では文章全体の構成をまとめる学

習となる。

そこで、段落のつながりをとらえ、文章全体の構成をまとめられるようにするため、次のような学習活動を設定した。

ア 指示語や接続語に着目して段落のつながりを考えさせる。

(ア)「初めの画面」「次の画面」の言葉から 段落は 段落のまとめ

(イ)「このように」から 段落は 段落のまとめ

イ アップ ルーズ まとめという対比的な説明の順序からまとまりをとらえさせる。

ウ 段落のまとまりに大見出しをつけることで、文章全体のつながりを考える。

エ まとまりにした根拠を説明させる。

(2) ねらい

書かれている内容、指示語・接続語などから段落のつながりを考え、根拠を明らかにして文章の組み立てを考えることができる。

(3) 展開

段階	学習活動	時間	指導上の留意点・評価
つかむ	1 学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">文章全体のつながりを考えよう。</div> 2 本文を通読する。 3 課題解決の方法を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・要点 ・小見出し ・段落の最初の言葉 ・接続語 </div>	7分	<ul style="list-style-type: none"> 今まで段落ごとに考えてきたつながりを文章全体で考えることをおさえる。 形式段落ごとに順番に音読する。次々と読み進め、思考が途切れないようにする。 「かむことの力」で学習したこと、前時までを生かして考えていけることを確認する。つながりを図で表すことも確認する。
ふかめる	4 いくつかのまとまりになるか考え大きなまとまりを作り、まとまりにした根拠となる理由とつながりを書く。 5 大きなまとまりがどうつながっているか考えた根拠を発表させて交流する。	28分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 前時までにつけた小見出しやつながり、書かれている内容、接続語・指示語などからまとまりを考えさせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 「アップ・ルーズ・まとめ」の構成を前時までのまとめなどを参考に考えさせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> まとまりを作った根拠となる言葉や内容の部分を指摘させながら、理由を書かせる。 まとまりをどんな根拠で作ったのか理由を発表させ、まとまりの内容を短くまとめながら、深めていく。

	6 発表された根拠をもとに、文章構成図にまとまりの大見出しをつけていく。		<ul style="list-style-type: none"> みんなで話し合ったまとまりから、文章全体の構成図を作っていく。
まとめる	<p>7 文章全体の構成をまとめる。</p> <p>(1) 大きく三つまたは四つのまとまりに分かれていること</p> <p>(2) と は「詳しい説明とそのまとめ」、 は写真の例、 が全体のまとめ、又は はまとめとつながっていること</p> <p>8 学習の振り返りをする。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> と、の書かれている内容からまとまりを確かめる。 段落のつながりと文章の組み立てを構成図で整理させる。 根拠をつけて文章の組み立てを発表させる。 <p>評書かれている内容、指示語・接続語などから大きなまとまりに分け、根拠を明らかにして段落相互の関係をまとめている。(ノート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> まとまりを考えるときの視点を振り返る。

(4) 具体の評価規準

- A 書かれている内容、指示語・接続語などから文章を大きなまとまりに分け、根拠を詳しくとらえて段落相互の関係をまとめている。
- B 書かれている内容、指示語・接続語などから文章を大きなまとまりに分け、根拠を明らかにして段落相互の関係をまとめている。

努力を要すると判断された児童への具体的な手立て

対比的にアップとルーズのことが書かれている から 段落、 から 段落、とそれ以外の段落を教師と一緒に振り返る。